

(表中敬称略)

会議名	REIM産学連携コンソーシアム合同会議 (第3回)		
日時	令和3年3月12日 (金) 13時30分～15時30分		
場所	メルパルク京都 研修室5		
出席者 (計9名)			
役職等	所属 (学校等・部門・部署)	役職	氏名
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	理事・技師長	黒谷 努
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	部長	先本 勉
連携企業	西日本高速道路株式会社	関西支社 構造担当部長	佐溝 純一
連携企業	一般社団法人建設コンサルタント協会近畿支部	参与 (建コン協近畿)	田底 成智
代表校	舞鶴工業高等専門学校	校長	内海 康雄
代表校	舞鶴工業高等専門学校	教授・社会基盤メンテナンス教育センター長	玉田 和也
代表校	舞鶴工業高等専門学校	准教授	毛利 聡
代表校	舞鶴工業高等専門学校	特命准教授	嶋田 知子
代表校	舞鶴工業高等専門学校	特命助教	掛 園恵
オンライン出席 (計25名)			
連携企業	西日本高速道路株式会社	技術研修担当課長 (茨木技術研修センター長)	福富 章
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	チーフ	小室 篤史
連携校	福島工業高等専門学校	校長	山下 治
連携校	福島工業高等専門学校	准教授	江本 久雄
連携校	福島工業高等専門学校	特命助教	浅野 貴元
連携校	長岡工業高等専門学校	校長	原田 信弘
連携校	長岡工業高等専門学校	准教授	陽田 修
連携校	長岡工業高等専門学校	助教	白井 一義
連携校	長岡工業高等専門学校	特命助教	丸山 聡
連携校	福井工業高等専門学校	校長	田村 隆弘
連携校	福井工業高等専門学校	教授	辻野 和彦
連携校	福井工業高等専門学校	嘱託教授	阿部 孝弘
連携校	福井工業高等専門学校	特命助教	宮川 清剛
代表校	舞鶴工業高等専門学校	総務係長	芦田 康弘
連携校	香川高等専門学校	准教授・社会基盤メンテナンス教育センター長	林 和彦
連携校	香川高等専門学校	助教	長谷川 雄基
連携校	香川高等専門学校	助教・社会基盤メンテナンス教育センター副センター長	入江 正樹

役職等	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
連携校	放送大学学園	副学長	池田 龍彦
連携校	放送大学学園	オンライン教育センター長・教授	近藤 智嗣
連携校	放送大学学園	課長補佐, 社会連携コーディネーター	東海林 壽朗
協力校	国立大学法人長岡技術科学大学	教授, 学長補佐(高専連携担当)	武田 雅敏
協力校	国立大学法人長岡技術科学大学	教授	岩崎 英治
協力校	国立大学法人長岡技術科学大学	准教授	宮下 剛
地域連携機関	京都府北部社会基盤メンテナンス推進協議会	副会長(京都府中丹広域振興局建設部長)	八田 直哉
地域連携機関	京都府北部社会基盤メンテナンス推進協議会	"京都府中丹東土木事務所企画調整課課長補佐兼係長"	木野 真一郎
議事次第 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事業成果 ・各部会からの報告 <ul style="list-style-type: none"> (1) リカレント教育プログラム開発部会 (2) 実務家教員育成研修プログラム開発部会 (3) 人材育成・活用システム設計部会 ・意見交換（テーマ未定） ・今後のスケジュール など 			



写真1 舞鶴高専 内海校長挨拶



写真2 会場風景



写真3 会場風景



写真4 意見交換の様子

REIM産学連携コンソーシアム合同会議（第3回）

日時：令和3年3月12日（金）13:30～15:30

場所：メルパルク京都研修室5及びオンライン

1. 挨拶

- (1) 議長挨拶 舞鶴工業高等専門学校 校長 内海 康雄

2. 今年度の事業成果

(1) 2020年度事業実施状況

- ✓今年度は教育拠点の整備，リカレント教育プログラムの開発と検証，実務家教員養成研修プログラムの開発を行った。リカレント教育プログラムは3つの講座で実証講座まで行った。高専REIMの取組みも土木学会など外部にPRした。パンフレットも出来上がる。引き続き広報活動も続ける。

(2) リカレント教育環境構築状況

- ✓実習フィールドの劣化部材の時系列的な変化を学修するなど，教材をさらに教材とする取り組みも貴重な学びになるため，検討していく。

3. 各部会からの報告

- (1) リカレント教育プログラム開発部会の報告
(2) 実務家教員養成研修プログラム開発部会の報告
(3) 人材育成・活用システム設計部会の報告

- ✓各部会議事録を参照

4. 意見交換『各組織におけるリカレント教育の位置付けについて』

<テーマ>各組織におけるリカレント教育の位置づけについて

(提供する側として)

- ✓放送大学はリベラルアーツを教養課程に取り入れている。AI, DX などの教材も作られている。セレクトして使ってもらうことで有効と考える。今後の開発に際しては放送大学を活用してもらえたらよい。(池田委員)
- ✓長岡技大には海外留学生や働いている人向けの修士プログラムがある。10年前からオーダーメイドの教育プログラムがある。工業高校卒の社会人が週に何回か通学してステップアップに必要な科目と取得する。研究室にも入って新しいことも学んでいる。周りの学生にも良い影響を与えている。(武田委員)
- ✓滋賀県が高専を作ろうとしている。建設に対するニーズがある。新しい人を誘うと同時に、今いる人がスキルをあげることが必要である。いっしょにやることを探す。ユニットを作る。コアな部分を作ることが重要。(内海議長)

(受け入る側として)

- ✓土木をやっていない人には社会人になって学ぶことが必要。土木をやっていないなくてもメンテナンスに特化することで活用できると考えている。(小室委員)
- ✓教育はインハウスで行っている。関連会社や旧公団OBの協力を得ている。一方、業務は多忙で中堅社員も少ない。OJT や研修が十分でない面もあり苦慮している。若手には自己研鑽の意識を高めてくれることを期待している。(福富委員)
- ✓建設コンサルタントも必要な教育は自社で行っている。橋梁点検に関して数年前に建コン協主体で講習会を行ったが測量会社の募集が多かった。市町村道の点検は測量会社がやっている。本事業の人材育成プログラムが期待されている。(田底委員)
- ✓整備局の取組みとして技術力向上スペシャリスト会議を作ったがメニューが少ない。本事業のプログラムは外部のツールとして良い題材なので、提案すれば来てもらえるのではないかと。(先本委員)
- ✓受講者のインセンティブが気になる。受講者のスキルアップにつながる。会社や組織で認められる。資格要件に繋がることなども必要である。受講する価値が得られなければならない。(陽田委員)
- ✓企業の社員も学び直そうとしている。自己研鑽の部分でニーズはある。工業高校卒を対象として高専卒レベルの講座にニーズがある。高専REIMもそういうところをアピールしていく必要がある。(陽田委員)
- ✓技能の継承は地方で課題である。OJT にも限界がある。社内の教育体制を構築するのに実務家教員は有効である。PR する運営が必要である。(陽田委員)
- ✓企業からのニーズがあつて講習会を始めたが難しすぎて不評だったことがある。事前にレベルを考える。企業とのマッチングが大事である。企業のニーズを調査して実施しないといけない。(内海議長)
- ✓福井県ではコンクリート診断士会が講習会をやっている。入庁4年目の県の職員、コンサルの人たちもいる。リカレント教育は官民ともに行っているが組織に戻ったあとどうなっているのかは分からない。ヒアリングをして今後のリカレント教育をどうするか考えることが重要である。(阿部委員)
- ✓リカレント教育が人事評価や考課に反映できるとよい。(玉田委員)
- ✓様々なリカレント教育が行われていることが分かった。長岡技科大と長岡高専では企業から依頼されリカレント教育が行われていることも分かった。(玉田委員)
- ✓香川では建設業協会の若手経営者や青年部が勉強会をしていると聞いている。前向きに取り組んでいる。ニーズはあると思う。地元で教育に取り組んでいる企業にどう受け取ってもらえるかを考えていくことが重要だと思う。(入江委員)
- ✓構造物がどのように作られているのかを知ることは大切。他の資格の講習会などはひとつの分野に限られての修得がある。本講座は多岐に渡っている強みがある。地方の技術者が不足する中で得られるものは多い。受けた後に受講者がやる気をなくさないようにアピールすることが有意義となる。(佐溝委員)
- ✓REIM の講座でも受講者をどう説くか課題である。メディアにも協力を得なければいけない。引き続きこのコンソーシアムで意見交換していきたい。(玉田委員)
- ✓各高専で実施体制や実習フィールドの整備も進み、活動がメディアにも取り上げられた。キャンパスごとに工夫されている。各部会も熱心に審議してもらった。リカレント教育プログラム

開発部会と実務家教員育成研修プログラム開発部会では概要や骨格が固まった。人材育成設計部会は今回が初めての開催であった。引続き制度設計を進めてもらいたい。リカレント教育に関する意見交換では有益な話がたくさんあった。どんな人集め、人づくりをするかが大切。今後はいただいた意見を踏まえて進めてもらいたい。(内海議長)

5. その他 (今後の予定, 事務連絡等)

- ✓2021年度の合同会議は, 第1四半期中の開催を予定している。

以上